

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.2

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

適期田植えと適切な水管理で初期生育を確保！

1 4月の気象経過と今後の気象予報

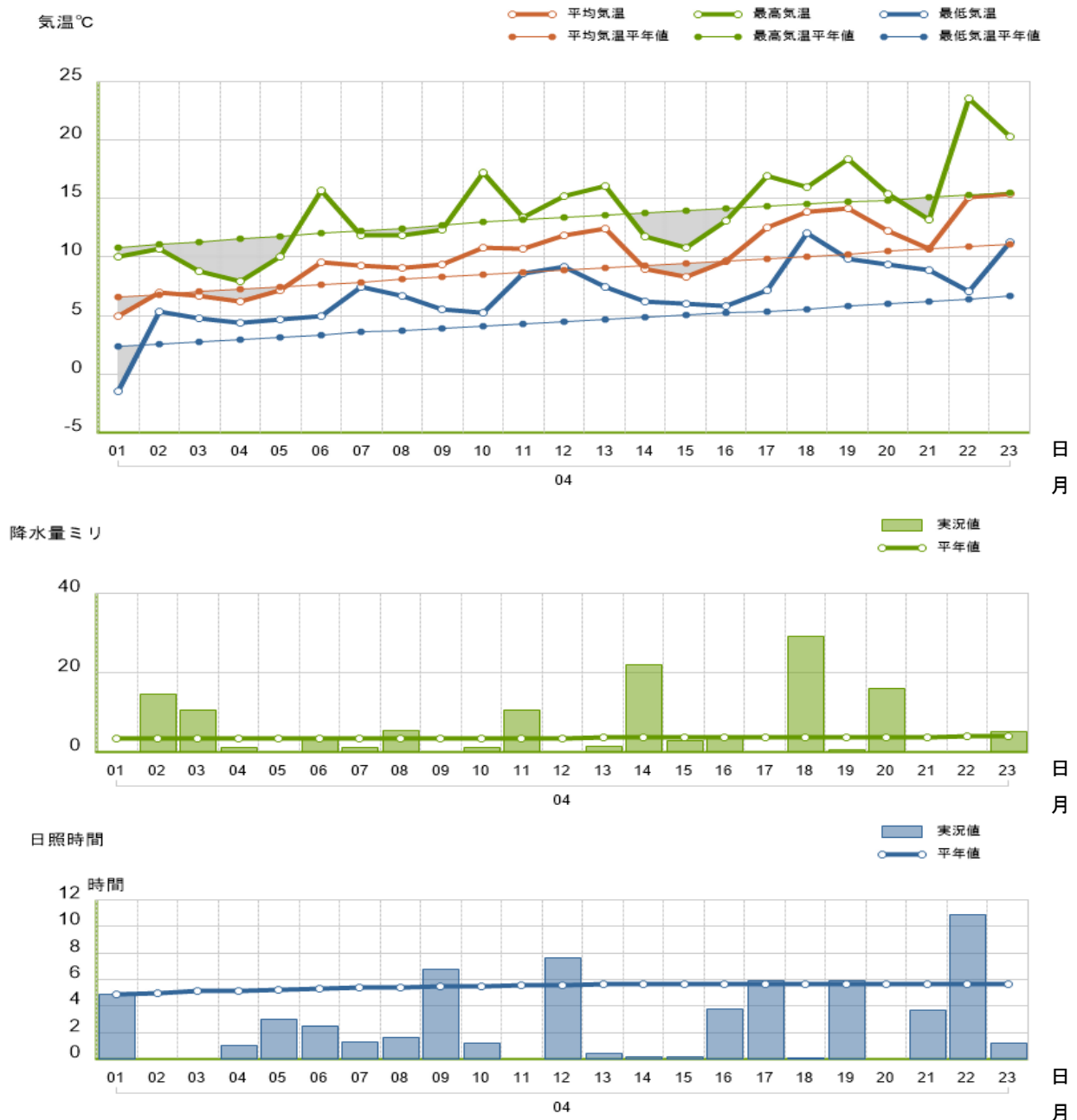


図1 4月の気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

4月は気温が高めに推移しましたが、断続的な降雨があり、日照時間が少ない日が多くなりました。

断続的な降雨によって春作業が遅れたこと等により、秋田地域振興局管内の播種作業は4月19日に盛期を迎えました(平年比+2日)。同様に耕起作業は現時点で平年より6日程度遅れています。

4月24日に仙台管区气象台から発表された東北地方 1か月予報(4/26~5/25)によると、向こう1か月の気温は高い予報です。特に、**2週目(5/3~9)の気温が高くなる見込みですので、育苗ハウス内の温度管理には十分注意してください。**

2 苗を老化させない育苗管理を徹底

【育苗期後半の温度管理】

苗の生育に合わせて、徐々にハウス内の温度を低く設定します。生育時期別の温度管理の目安は右の図を参考にしてください。

2.5 葉期以降は、特に寒い日で無い限り夜間もハウスを解放し、徐々に外気温に慣れさせます。ハウスの換気は、側窓を十分に開放して通気を良くすることが重要です。

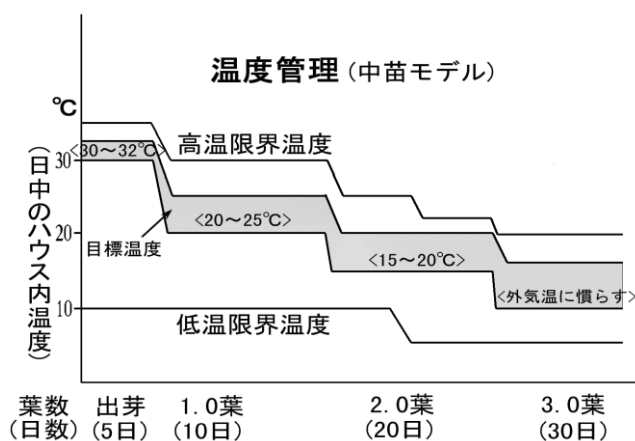


図2 育苗期間の温度管理(中苗)

3 適期に移植しましょう

極端な早植えや遅植えは、その後の気象経過の影響を受けやすいため、適期に移植することが重要です。高温登熟の影響を軽減するとともに、**移植後の低温による初期生育の遅延を防ぐため、移植は5月20日～25日頃(あきたこまち、中苗)を目安とします。**

移植適温は、日平均気温が稚苗で13℃以上、中苗が14℃以上です。可能な限り、最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃以下の日や強風の日には作業を見合わせます。

4 移植後は水管理で活着・分けつ促進

移植後の苗は通常、4～5日で活着しますが、気温・水温とも高いほど活着は早くなります。活着するまでは、保温効果を高めるため水深を4cm程度とします。活着が確認された後は、日照の多い日や温暖な日は浅水で水温・地温を高め、分けつの発生を促進します。

5 病虫害防除は適切に実施しましょう

①いもち病

4月23日に病虫害防除所が発表した「令和7年度 農作物病虫害発生予察情報発生予報第1号(5月予報)」(以下、発生予報)によると、いもち病(苗いもち、苗の葉いもちを含む)の発生量は平年並と予想されています。**育苗施設の周辺や施設内に稲わら・籾殻を置かないようにし、育苗期間中に病斑が認められた場合は、同一育苗施設の苗は移植しないでください。**

②苗立枯病

発生予報によると、苗立枯病の発生量は平年並と予想されていますが、**高温性のリゾープス菌による苗立枯病はやや多いと予想されています。**出芽期間中は32℃以上の高温にしないこと、また、育苗期間中も高温に注意し、図2を参考に適切な温度管理を行ってください。

③ばか苗病

発病苗が確認されたら、移植前までに抜き取ってください。

④斑点米カメムシ類

本県の主要種であるアカスジカスミカメは、ノビエやホタルイ等のカヤツリグサ科雑草の穂に産卵するため、これらの雑草が水田内に繁茂すると多発し、斑点米の被害が増加します。

斑点米被害防止対策としては、農道・畦畔の除草対策とあわせて、水田内雑草の防除を徹底することが重要です。除草剤の効果を十分に発揮させるポイントとして、①あぜ塗り等による漏水対策を確実に、②除草剤散布時の水深は田面の高いところでも5cmを確保する、③除草剤散布後一週間は湛水状態を保つ等の対策を徹底しましょう。

6 農薬の飛散(ドリフト)に注意！

農薬の飛散による危害防止のため、次の点に注意しましょう。

- ①周辺の住宅地や農作物に配慮し、風がないまたは弱い時に散布しましょう。
- ②散布位置や散布方向に他の農作物等がないことを確認したうえで散布しましょう。
散布に当たっては、適切なノズルと圧力で行いましょう。
- ③農薬散布の内容を記録しましょう。

＜4月 20 日から5月 31 日は「春の農作業安全運動月間」です＞

春の農繁期となる4～6月にかけて、農作業死亡事故が多発しています。
農業者の皆様におかれましては、農作業機械の運転・操作の際には農作業事故の未然防止と安全対策の徹底をお願いします。

◇次号は6月 12 日頃の予定です。